

「EMの微笑み」 = (今泉 智氏・米倉 金喜氏) その活動の  
 現況視察に外国からの訪問があり、原発事故と復興状況への  
 関心の高さが伺えます。

イギリス・フランス・ドイツ・オランダ・スイス・タイ・ベラルーシ7カ国です。

### U・net災害復興支援 プロジェクト始動。対象面積32ha

堆肥の線量がEMで下がったことを伝えようと、EM研究機構に電話をし、船引町で講演をした比嘉教授にも会いに出かけました。そしてNPO法人地球環境・共生ネットワーク(U・net)に相談するようにと指導を受け、この時から、田村市都路町におけるU・netの支援プロジェクトが始まりました。

プロジェクトは今泉さんの住んでいる自宅ログハウスの前の道路1.6kmの両サイド100mの範囲、合計32haにEMを散布しています。そこには4軒の家があり、住民の方は船引町の仮設住宅に避難していて、自宅の片付けで、都路町に通っていました。今泉さんがEMで線量が下げられる話をしたら、ぜひEMの散布をしたいと言ってくれたので実行することに決定しました。



EM散布の準備をする今泉さん(右)とEM研究機構の奥本さん

### 40基の1トントタンクで培養開始

U・netから40基の1トントタンクが到着。丸1日、4人がかりで仕込みを行いました。順調に2週間くらいでpHは3.1まで下がりました。40基のタンクの内、30基で二次培養。残りは糖蜜などの保管用などに使用。培養場所は、休眠していたキノコの栽培施設を借りて、タンクを配置。水源は建物の裏手にある川の沢水を使用。ポンプで1トンの水量を3〜4分で入水できる設備を完備。初回は水温14℃の時に仕込んだので、立ち上がりの温度が低かったのですが、ハウス用の加温パナールで培養室全体を加温したため、仕上がりは順調でした。



【上右・左】茸栽培用の施設を利用して40基のタンクで2次培養をしています。



【左】培養施設裏にある沢水から動力エンジンで揚水します。